



はじめに

放課後、子どもたちが帰った静かな教室で、「先生、わかった！」「楽しかった！もっとしよう！」満足そうな顔や真剣に取り組む表情、友だちの声に耳を傾ける様子。授業中に見せた子どもたちのそんなすてきな姿が浮かんできます。「先生になってよかったな」「子どもたちと毎日過ごせるってすてきだな」「また、明日もがんばろう」と幸せな気持ちになる時間です。しかし、それと同時に、「もっとこうすればよかったな」「あの子いい顔していなかったな」「本当にみんな理解できているかな」と、不安になったり反省したりもします。

「明日、子どもたちの笑顔が授業でたくさん見られるといいな」とクラスの子どもたち一人一人の顔を思い浮かべながら、教材研究をし、授業づくりをします。教室には、子どもたち一人一人が安心して自分が出せる居場所があり、授業の中で、子どもたちがつながることができるように心がけています。そして、授業に積極的に参加できない子や学習の苦手な子も、みんながいい顔をして真剣に取り組めるものであればと、願いながら授業づくりをしています。

そんな日々の取り組みを形にしたものが学習指導案です。学習指導案は、自身で教材に対する研修を深め、同僚の先生たちと相談をしながらつくっていきます。それは、単なる教材の教え方ではなく、その中には、子どもたちへの「願い」や「おもい」が込められています。指導案に書かれている言葉や文章の端々から伝わってくるはずです。

受講生のみなさんは、模擬授業を通して、授業をつくる楽しさや難しさを感じられたことでしょうか。だからこそ、より一層、真摯に授業づくりに取り組まれることと思います。先生になった時には、子どもたちに温かいまなざしを注ぎながら、「こうなってほしい」「こんな力をつけてほしい」という「願い」や「おもい」をもって、授業づくりに取り組んでください。その時に、この指導案が受講生のみなさんの参考になればと思います。

奈良県ディア・ティーチャー・プログラム第8期リクルーター一同

